

リーダーとなる教員を育てる —修士課程教育研究科の挑戦—

水本徳明

人間総合科学研究科助教授

教師教育をめぐる状況

教員評価、教職大学院、教員免許の更新制、指導力不足教員、教員養成 GP など、最近の教育政策にかかわって登場した言葉を幾つか並べてみただけでも、教員の専門的力量とその形成が非常に大きな社会的課題とされていることは明らかである。社会において必要とされる知識がますます高度化する一方、子どもたちをめぐる問題状況はますます複雑化して、教員の仕事を極めて困難なものにしている。これまで学校において個々の教員が対応してきた学級内の問題や保護者の要望なども、もはや平均的な教員の対応能力を越えるものになってきた。かといって、学校教育につき込む資源を大きく増やせるような環境にもない。

結局、学校教育の今日的な課題を解決するには、個々の教員の力量をさらに向上するとともに、組織的形態において学校教育の質を高めていくことが不可欠である。こ

こに、今日の教師教育の重点課題がある。すなわち、個々の教員の専門性を高めると同時に、教員が組織的に活動するための力量を高めていかなければならないのである。リーダーシップや企画力、調整力などこれまで教師教育の中で必ずしも焦点化されてこなかった力量に焦点化した教育が求められているのである。

教育研究科の特色

修士課程教育研究科は、これまでも学校においてリーダーとなる人材を多く輩出してきた。筆者の所属する教科教育専攻には学校教育コース、国語教育コース、社会科学教育コース、数学教育コース、理科教育コース、英語教育コースが置かれている。学校教育コースは生徒指導と学校経営についての専門的な教育を行ってきた。また、国語から英語にいたる5つのコースでは、総合大学ならではの高度な教科専門科目と教科

教育科目を提供するとともに、専攻の共通科目を初め幅広く科目履修することとし、より高度でなおかつ広い専門性を持った指導的教員を育成してきた。こうした点は、他の教育系大学院とは異なる特色であり、大学院レベルにおける教師教育の「筑波ブランド」を支えてきた。実際、毎年多くの現職派遣教員を受け入れ、リーダーとなるべき人材として学校教育現場に送り出してきた。学群・学部からの進学者も、現職派遣教員とともに学ぶことを通して、現場からの刺激とベテランからの豊かな智恵を得て成長してきた。

教育研究科の改革構想

先に述べたような教師教育をめぐる課題状況の中で、教育研究科では教科教育専攻の改革を検討してきた。当初は6つのコース全体の改革を検討したが、時間的な制約などの理由で構想の縮小を余儀なくされ、結局図のような改革を平成18年度に向けて文科省に申請中である。具体的には、教科教育専攻の学校教育コースを「スクールリーダーシップ開発専攻」という新しい専攻として独立させる構想である。その中に学校のマネジメントにかかわるリーダー(校長、教頭)の育成をめざす「スクールリーダーコース」と、学習と生活の支援にかかわる専門職型リーダーの育成をめざす「学

習・生活支援コーディネータコース」を置くこととした。カリキュラムはプロブレム・ベーストで構成し、各コースの専門科目と両コース共通の必修科目及び選択科目を設定するとともに、スクールリーダーコースでは「スクールリーダー実践研究」を、学習・生活支援コーディネータコースでは「学習・生活支援コーディネータ実践研究」と「学習・生活支援特別研究」(いずれかを選択)を設け、より実践的なリーダーシップ能力が形成できるよう工夫した。

もちろん、教科教育専攻として残る国語教育コースから英語教育コースまでの5コースについては、これまでの特色を損なわないよう、スクールリーダーシップ開発専攻との間に共通の科目を設定し、教科教育のリーダーとして幅広い専門性を身につけられるよう配慮した。個人的な意見であるが、この5コースについても、今後たとえば「スーパーティーチャー」の育成というような方向での改革が展望できるのではないだろうか。

新しい皮袋には…

現在、学校教育コースの教員を中心に、スクールリーダーシップ開発専攻という新しい皮袋に入れる酒を仕込み中である。

たとえば、二つのコースに設けられる「実践研究」では、学校での実践に受講生をど

のようにかかわらせ、どのように指導して、報告書をまとめさせるのか。修士論文に代わる実践報告書の評価をどうするのか。他の科目でも、事例の検討などを積極的に取り入れていく必要があるだろう。コーホートを基盤とする共同のリフレクションを生かした指導のためには、どのような指導体制が必要だろうか。新専攻の目的にあった人材を選抜するための入試の在り方も検討

しなければならない。また、教員を派遣してくる教育委員会や「実践研究」の場となる学校との連携を構築しなければならない。課題は山積している。

新しい専攻は申請が通れば平成18年4月には開設されるので、あまり時間的な余裕はない。しかし、拙速は避け、じっくりと発酵を待って旨酒を仕込みたい。

(みずもと のりあき/共生教育学)

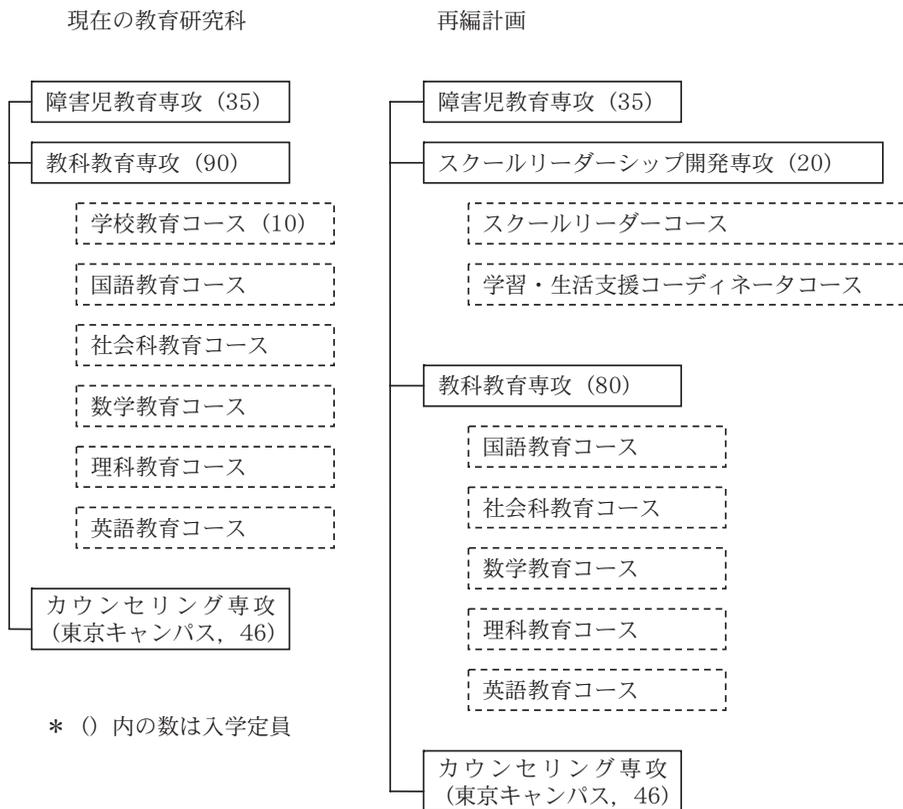


図 教育研究科の再編計画